

空調効率を大幅向上

ブレードサーバ専用ラック開発

ソフトバンク IDC 独自技術を採用

ソフトバンク IDC（東京都新宿区、真藤豊社長、03・4354・0000）は、ブレード（基板型）サーバの収容に対応したデータセンター（DC）の提供事業を強化する。ブレードサーバは電力消費量や発熱量が大きく、既存のDCの収容能力では対応が困難となっている。このため空調効率を高める独自技術を採用したブレードサーバ専用ラック（棚）を開発。まず新宿区の「新宿データセンター」で配備を開始した。今後全国9カ所のDCにも順次整備を進める。

新宿センターに まず設置 最適環境を提供

専用ラック「コールドモール」は、暖かい空気が排出されるサーバの背面部分と冷たい空気が集まるサーバの前面部分の空気の交流を遮断する構造

を持つ。暖気はファンで吸収して滞留を防ぎ、サーバは冷気だけを効率的に吸気するなど全体を適温環境に維持する工夫。暖気と冷気を遮断す

るために独自開発した空気弁は特許を出願した。電力供給も1ラックあたり最大200kW電源4系統と100kW2系統を

引き込むことが可能。消費電力量の大きいブレードサーバにも十分対応できる能力とした。

06年に実施した新宿データセンターの増床部分（1000ラック相当）に専用ラックを配備し、ブレードサーバの収容を希望するユーザー向けに提供する。既存のDCと比べてラックスペースの提供価格を割高に設定できるため、限られたスペースの有効利用にもなる。今後はユーザーの需要

に応じて専用ラックを東京・有明、新川や大阪など各地の都市型DCにも

展開。競合と事業を差別化する有力な武器にしていく。



新宿データセンターに設置したブレードサーバ対応ラック